
星空ナルミ短編集

星空ナルミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星空ナルミ短編集

【Nコード】

N8710Y

【作者名】

星空ナルミ

【あらすじ】

季節をテーマにした短編集です。

他のテーマを決めて書くこともあるかも？

注意事項

はじめに

こんにちは、星空ナルミです。

作っちゃった短編集

4つの季節をテーマに”その季節にいた女の子たち”の目線で書いてみました。

ページ数は短かったり長かったりとまちまち。

どの季節も同じじゃねwwって言うのは禁則事項ですからね？

違う女の子です。

もう一度いいますが違う女の子です。

大事なことでなので二回言いました。

では、このへんにして次のページへどうぞ。

(春 夏 秋 冬の順になってます)

桜、

桜は儚い。春が過ぎたらすぐに散ってしまつて、無くなつてしまふ。

だから、春はキレイだ。

「ねえ！君！」

「…はい？」

呼ばれて振り返るとスーツを来た青年が立っていてにこにことして

いた。勧誘だったら嫌だなと思い、私はスタスタと歩き出す。

「待ってよ！」

「勧誘なら結構です！他を当たって下さい」

「待って！」

同時に腕を掴まれて、抱きしめられる。

「なっ…なんなんですか！離し…」

「俺は、お前にずっと会いたかったんだよ！だから、こうして戻ってきた。」

「えっ………？」

怒るのも忘れて、私はきょとした顔で彼を見つめた。

「ただいま。ずっと待たせてごめんな？俺、この二年間、お前を迎えに行く為に頑張ったんだ。やっとそれが終わってお前を迎えに来れた…」

「……ほんとに…？」

「ああ、ほんと」

にっと子供みたいに笑う彼。二年前と同じ、笑顔。

こうして笑ったのを見たのは久しぶりで、外見は少し変わったもの

の、声はあの頃と同じで。

知らず知らずのうちに私は泣いていた。

泣くなよーなんて笑う彼は私を抱きしめた。

春は桜が散るからキライ。だけど、あいつに会えたから、スキ。

海と、ボクと

「きつもちいいよー」

「水が？」

「うんっ」

「当たり前ー冷たいし」

「はーやーくーきーてー」

「絶対やだ」

目の前ではしゃいでる、ボクの彼女。

ボクは海に入るよりも眺めているほうが好きだ。だから、彼女が引っ張って行こうとしてもこうして、やだ、の一点張りをしている。

それが気に入らないのか、頬をぷうつと膨らませて拗ねている。

「もー、なんで？一緒に海行こうって言ったのは李羽^{りゅう}でしょー？」

「そうだけど海に入るとは一言も言っていないだろ」

「なっ…だから入らないって言うの！？」

「んー」

「ひどい!」

「どーせひでー男ですよーだ」

「なっ…もっ…」

李羽「…まったく」

重い腰を上げて、彼女：南彌なみの元へ歩いて行く。歩くたびに水がパシヤパシヤと跳ねてかかる。

南彌「ふふっ、水がかっちゃうよ？李羽」

李羽「うつせえ、ちよつとだろーが」

南彌「ふふふっ（笑）」

李羽「おりゃっ（笑）」

南彌「冷たいー><」

李羽「文句言ったからお返しだ（笑）」

南彌「やだーっ！えいっ（笑）」

バシヤバシヤと水を掛け合ったあと、ずぶ濡れになったお互いを見

て笑った。

南彌「李羽？」

李羽「ん？」

南彌「大好き。」

李羽「ああ（微笑）」

また来年もこうして来たい。

南彌のはしゃぐ姿を見て、笑い合いたいな…

金木犀・キンモクセイ・

私の名前は神無月^{かみなづき} 莉緒^{りお}。

今、すごく機嫌が悪い。なんでかって？こいつのせいです。

「りーおー」

「うつさい！さっきからなんなの！？少しは…」

「これ！」

渡された小さい包み紙を何気なく受け取る。

「…なにこれ」

「まあまあ開けてみなさいよ莉緒ちゃん」

言われた通り開けてみると、中には小さなくまのマスコットが入っていた。

「これ…私が欲しいって言ってたやつ…！どうして？」

「どうしてって…お前が欲しいって言ってたの知ってたから…だからあげなきゃって」

照れくさそうに笑う彼を見たらいつの間にか私は泣いていた。

「おい…大丈夫か？莉緒！？」

「ひっく…大丈夫…っ…私…あなたが好きです…っ…」

「…俺も好きだ、莉緒。だから、付き合ってください」

「…っ…はい…」

二人を包むように辺りには金木犀の香りが漂っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8710y/>

星空ナルミ短編集

2011年12月20日14時48分発行